



TITLE:

学生の声

AUTHOR(S):

CITATION:

学生の声. Cue 1998, 2: 65-65

ISSUE DATE:

1998-12

URL:

<https://doi.org/10.14989/57774>

RIGHT:

学生の声

テーマ：留学生の三つの戦い

電子通信工学専攻 吉田研究室 博士課程 陳

嵐

日本に来ている私費留学生の多くは、三つの戦いに直面していると言われています。それは、生活との戦い、日本語との戦いそして研究との戦いです。すなわち、母国からの仕送がほとんどない私費留学生は、第一に、物価の高い日本でアルバイトに頼った生活という難関と戦わなくてはなりません。第二に、生活と研究に支障をきたさないように、日本語という難関と戦わなければなりません。そして第三に、留学の主な目的である研究及び学位の取得という難関と戦わなくてはなりません。

この三つの難関と同時に戦って行かなければなりません。私の経験から言わせてもらいますと、第三の難関を中心に戦って行けば、第二と第一の難関も次第に解決していくと思います。つまり、研究室を戦場に、関連文献を読んだり、研究室の日本人学生と活発にディスカッションを行ったりすることで、研究成果を一日も早く挙げることができます。それと同時に、研究論文の執筆、学会発表などを通じて、日本語の読み書き及び話す能力が向上し、第二の日本語の難関を突破することができます。そして、第三と第二の戦いの成果（研究実績と日本語の上達）を備えて、奨学金、研究奨励金などに申請し、採用されれば、それにより、生活費をまかなうことができ、安心して、研究により一層専念することができます。また、一サイクルとして、最終の目標である良い成果で学位を修得することにつながります。当然ながら、三つ目の研究を最初の難関として戦う間には、信念が必要ですが、この信念が生涯にわたって役立つと思います。私は、この三つの難関と戦いながら、留学生活の最大の目標に向かって、頑張っていきたいと思っています。

「日本へ留学」

電子物性工学専攻 光量子研究室 博士課程 1 回生 チュティナン・アロンカーン

私は小さい頃から日本にあこがれていました。私の父は仕事の関係でよく日本に行っていました。その度、日本の大きなりんごや電子ゲームを買ってくれました。私の中のイメージでは日本は先進国で、何もかもがすごいものでした。お恥ずかしいながら、日本の大きなりんごはきっとバイオエンジニアリングのおかげに違いないと本気で思っていました。(実際日本に来てみると、果物や野菜が気温が低いせいかタイより大きいことに気づいたのですが)。そして、私は不思議に思いました、日本は同じアジアなのになぜ他の国より速く成長できるのか。

高校の時、外国へ留学するという雰囲気は何となくありました。アメリカと日本、どちらに留学しようかと迷う中、私は日本を選びました。日本は同じアジアだから、きっとアメリカよりタイと近い文化や考え方を持っているだろうと思いました。それから、日本に来て日本語学校での一年間を経て京都大学に入学しました。私にとってはびっくりしたことに、学部の時、勉強するからには「優」をとろうという人があまりにも少なかったです。これでは日本が先進国になれる理由が理解できませんでした。しかし、研究室に入ってみると、学部の時とはまるで違った場所かのように皆は考えられないほど研究に熱心でした。そして、こういった真剣な研究は最近始まったばかりではなく、昔から日本人の性格に入っていたことがわかりました。東芝はエジソンが電球を発明してから10年も経たない内に電球を売り出していることをご存知でしょうか。また、大丸という会社は280年以上も前から創業して今まで続いていることを考えると、日本がアジアの中で唯一先進国になれることが理解できます。タイではこの間までは急激な経済成長を遂げていました。しかし、バブルが弾けると、技術の積み重ねという基盤がないため、いとも簡単に経済危機に陥ってしまうことを実感させられました。

今後、日本で学んだ知識、技術、研究の仕方、考え方そのものを活かしてタイの発展に貢献したいと思っています。